

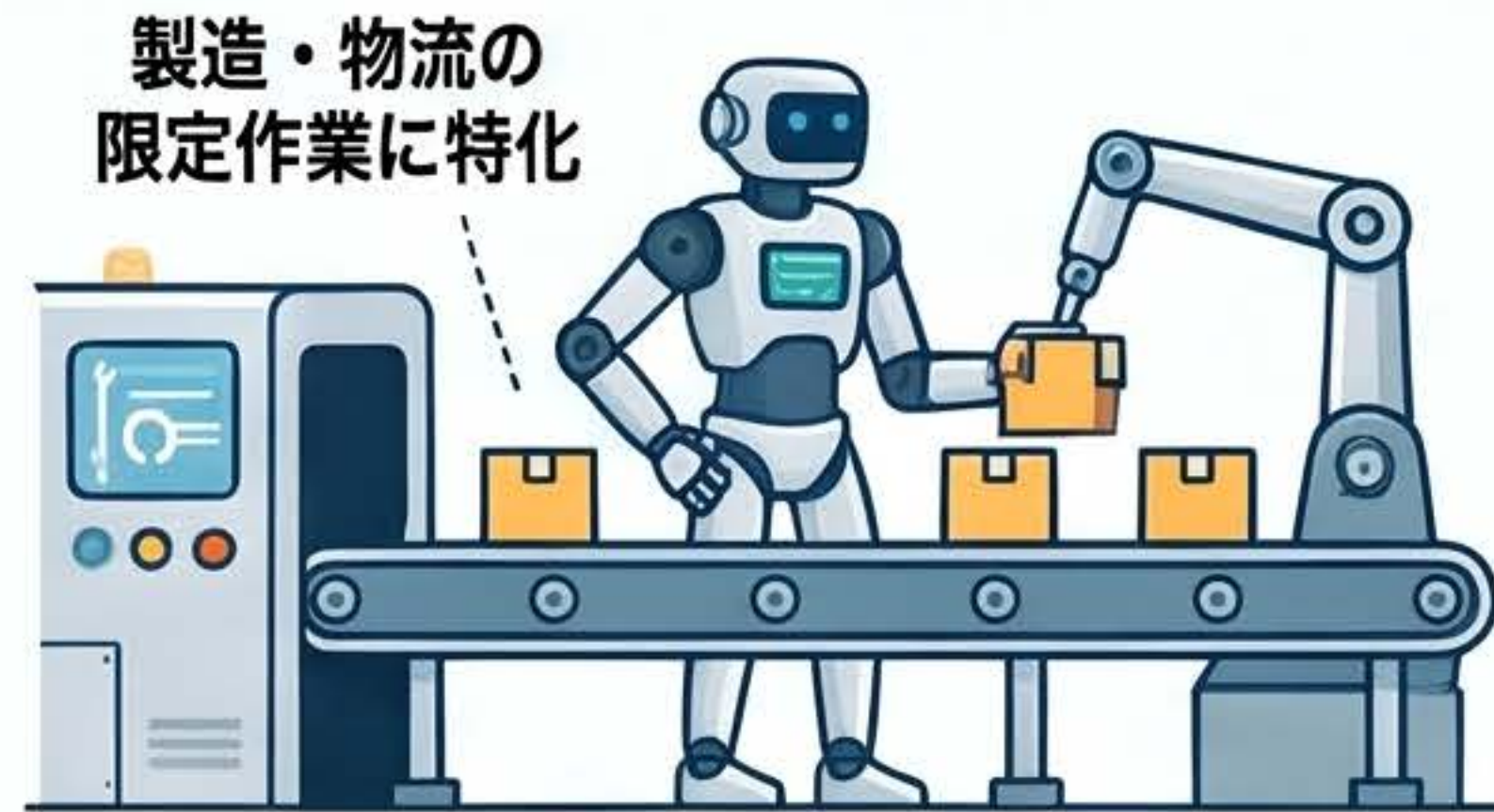
ヒューマノイド産業における日本の「現実的な勝ち筋」

米中が大規模投資と量産で汎用二足歩行ロボットをリードする中、日本が勝つには汎用機体の直接競合を避け、「用途特定型の完成機」「高精密コア部品」「現場向け運用サービス」の組み合わせへ戦略を集中する必要があります。

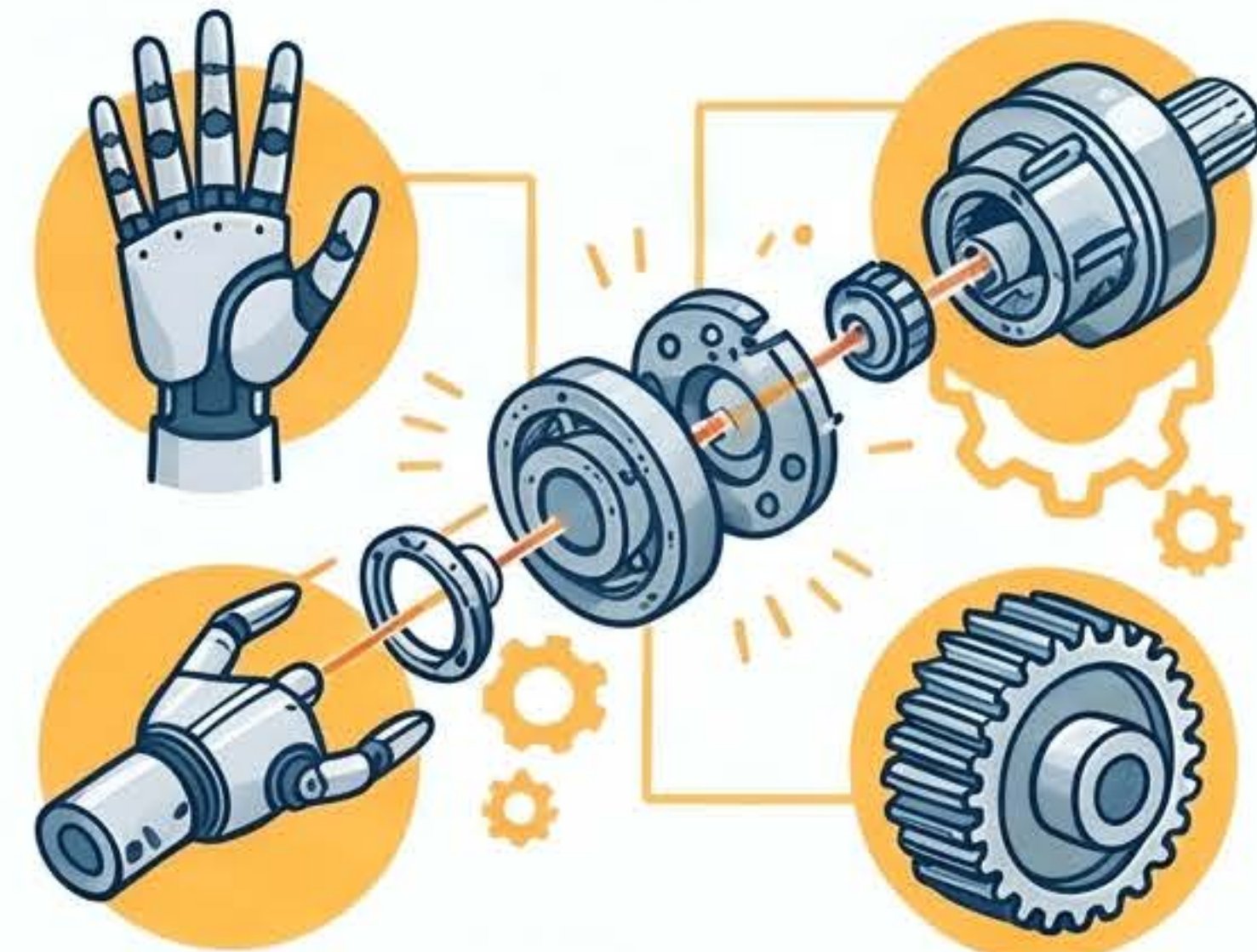
日本が狙うべき3つの主戦場

汎用型ではなく「**特定用途向け完成機**」

強みを活かす「**高精密コア部品**」



有償での継続導入と横展開を担う



手・関節・減速機など、価格・量産性・組み込みやすさを備えた部品で主導権を握る

単体受託を脱する「**運用統合サービス**」



真の商用化を見極める評価基準

本体価格ではなく「**作業完了の総費用 (TCO)**」で比較



単発の試作・デモから「**有償継続と追加発注**」へ

